

教育目標 「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成

めざす生徒像

- (1) 自ら進んで確かな学力・学習する力を身につける生徒
- (2) 礼儀正しく、気持ちのよいあいさつができる生徒
- (3) 感謝と思いやりの心を持ち、他の人と協調して共に向上できる生徒
- (4) 健康な身体とたくましい体力を持ち、運動に親しむ生徒

南行徳中学校の重点目標

- (1) あたりまえのことがきちんとできる学校
- (2) 生徒の活動が見える学校
- (3) 授業改善を推進する学校
- (4) きれいな環境を整える学校
- (5) 特別支援教育を推進する学校
- (6) 地域と連携する学校

めざす教師像

- (1) 授業の質の向上のために自らの授業を振り返り、研修や授業改善に努力する教師
- (2) 生徒一人ひとりへの理解を深め、生徒に活動意欲を持たせることができる教師
- (3) 教育への情熱を持ち、教員としての成長を目指すことができる教師
- (4) 生徒に豊かな表情で接し、明るくさわやかで生徒から信頼される教師
- (5) 学校の機能性を高めるために、報告・連絡・相談を密に行うことができる教師

具体的な取組

南行徳中学校の共通取組^{重要}（落ち着いて学習できる環境）

下足箱の正しい使用方法

- ・上履きは上の段
- ・下履きは下の段
(習慣化するまで指導を)
(掲示物の工夫を)

チャイム前着席・次の準備

- ・休み時間に次の授業の準備をする
- ・4校時が移動教室の時は机を移動する

集中して清掃に取り組む

- ・清掃中は無駄な話はしない
- ・担当場所をしっかりと清掃する
- ・時間いっぱい取り組む
- ・きれいな環境をつくる

朝読書

確かな学力

豊かな心

健やかな体

- ・年間授業計画に基づいて計画的に（教科内での共通理解を）
- ・わかる授業の実践
- ・ユニバーサルデザインを意識した授業の実践
- ・生徒の活動がある授業
- ・本時のめあてがはっきりと示される授業
- ・図書館を活用した授業

- ・すべての生徒に声かけを
- ・挨拶運動、オレンジリボンキャンペーンの推進（生徒会と連携）
- ・道徳教育の充実
(年間計画に沿って計画的に)
- ・特別活動（委員会・行事等）の充実（生徒が活躍する場をつくる）
- ・マナーの指導

- ・授業や部活動中の怪我の防止（危険が予見される場合は、適切な対応を行う）
- ・ヘルシースクールの取組の推進（講演会の実施・外部機関との連携）
- ・食育の取組の推進（保健、家庭科との連携）
- ・生活リズムの取組の推進（保健・給食委員会や、養護教諭・栄養教諭との連携）

信頼される学校

- ・教育相談の充実（不登校生徒やふれあいルーム登校生徒等への対応）
- ・子どもに視点を置いた保護者との連携（教師と保護者の良好な関係）
- ・地域の行事やボランティアに積極的に参加（地域の教育力の活用）

今年度の重点方針目標

(1) あたりまえのことがきちんとできる学校

- ・基本的な行動様式を指導しながら、規範意識を育て、その向上を図る。
挨拶、入室指導や集会指導などを通じて、基本的な行動様式を身に付ける。また、清掃指導、朝読書、遅刻・服装指導などを通じて規範意識を育て、その向上を図る。
- ・小中が連携し、共通指導項目を検討し、協力する。(あいさつ、言葉遣い、基本的な行動様式など)
- ・「学習習慣の確立」を目指し、小・中学校が連携する。(「家庭学習のすすめ」リーフレットの活用)
「忘れ物」「提出物」「宿題」「家庭学習」の取組みを計画的に共通理解のもとに実施する。
- ・ねらいに即した年間計画を作成し、「わかる授業」の推進を図る。

(2) 生徒の活動が見える学校

- ・生徒の自主的な活動が目に見えたり、聞こえたり、体感できるものにすることを重点にして取り組む。
- ・生徒の活動を視覚的にわかるように廊下の掲示を工夫する。(委員会の活動内容や写真の展示)
- ・学習の足跡が見えるように工夫する。(作品や優秀ノートの展示など)
- ・ホームページや学校だよりなどで活動の様子を積極的に伝える。

(3) 授業改善を推進する学校

- ・ＩＣＴ、タブレット機器の積極的な活用を行う。(生徒がＩＣＴを活用できる工夫)
- ・ブロック内での授業公開や校内での職員相互公開を行う。

(4) きれいな環境を整える学校

- ・教室環境づくりをする(教室・廊下等)、校舎内環境づくり・校庭の整備
- ・情操教育一環として「花一杯」活動に力を入れ、気持ち良く生活できる環境を整える。

(5) 特別支援教育を推進する学校

- ・巡回指導員や特別支援コーディネーターより発達障害についての研修を深める。
- ・「授業や学校生活」等具体的な場面での実践的な対処法を身につける。

(6) 地域と連携する学校

- ・幼・小・中学校の連携を推進する。
- ・地域の教育力を活用する。(地域の方々に授業や諸活動に入っていただく機会を増やす)

リフレッシュデー

ノー残業デー・ノー部活タイム・最終下校短縮の実施

ノー残業デー：毎週水曜日 17:30 までに退勤

ノー部活タイム：各部活週 1 回の朝、毎週水曜日の放課後

最終下校の短縮：4 月～9 月 17:30 10 月～3 月 17:00

放課後の使い方

【生徒】

- ・生徒に帰宅後の家庭での時間の過ごし方を示す。
 - ① 家庭学習に取り組む。(学校の予習・復習など) ※家庭学習のすすめのリーフレットを配付する
 - ② 家の手伝いをするなど、家族の一員であることを自覚して行動する。
※ 年度初めに、学校だより等で、「ノー部活タイム」「最終下校短縮」の趣旨と、家庭での過ごし方等、家庭への協力を依頼する。

【学校】

- ・水曜日は、職員の放課後の時間を確保する。必要に応じて、会議や教育相談等に使う。
- ・会議の効率化に努める。
 - ① 終了時間を定める。
 - ② 会議の目的とゴールを全員が認識する。
 - ③ パソコンを活用し資料のデータ化